

## 第8回目

2012年8月10日(金曜日)  
18:00 ~ 19:00

元安橋東詰からスタートし本通り、金座街を往復します。毎週金曜に歩きます。

飛び入り歓迎  
槍が降ったら中止します

## 広島2人デモ

雨天  
決行

いてもたってもいられなくなった仕事仲間と恥も外聞も捨てて仕事の合間にたった2人でも歩く。それが2人デモです。黙っていたら社会人としてだけでなく、企業人としても恥。

野田首相！あなたは恥を知るノダ！

調査・文責：哲野イサク  
チラシ作成：網野沙羅  
連絡先：sarah@inaco.co.jp



[http://www.inaco.co.jp/hiroshima\\_2\\_demo/](http://www.inaco.co.jp/hiroshima_2_demo/)

## 4月から大飯原発再稼働を狙っていた関電！和歌山市 LNG 火力発電所は建設中断のまま

関電は2001年に和歌山市内で出力370万kWのLNG火力発電所建設に着手、が需要の伸び悩みから2004年に建設を中断。今夏の「電力不足」の懸念から和歌山県議会議員新島雄氏(自民党)は、4月20日関電本店を訪ね、この発電所建設の早期再開を求めましたが、関電は断りました。この時から関電は大飯原発再稼働を確信していました。

(裏面参照のこと)

## マスコミが報じない資料 地震の巣の上の 大飯原発

今回再稼働した3号機、4号機(18日21時再起動)は、かつて断層がずれたことを示す断層破碎帯の真上に乗っていることが判ります。3号機・4号機は地震の巣の上に乗っているのです。

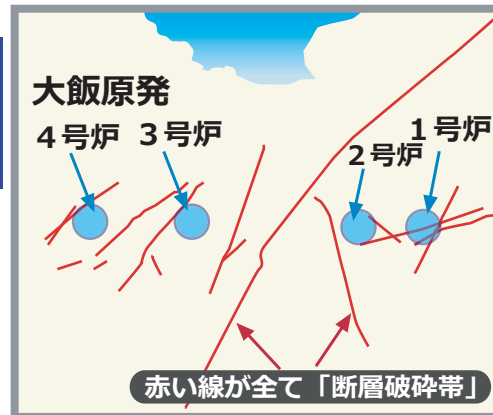
(大手マスコミはこの資料を報じていません)「大飯原発事故」の前に再稼働を止めましょう。

## 「福島原発事故は終わっていない」

(国会事故調報告 - 2012年7月5日)

# 関電

## 嘘で固めた大飯原発再稼働 「電力不足」「電気代値上げ」の脅し きちんとした検証が必要です 次にだまされないために 黙っていたら“YES”と同じ



出典：原子力安全・保安院「地震・津波に関する意見聴取会」第19回平成24年7月17日配布資料「地震・津波19-4」P7「大飯発電所地質水平断面図(EL+3m)」図をトレース処理  
<http://www.nisa.meti.go.jp/shingikai/800/26/019/240717.html>

## どうしたら原発を止められる？

東京の首相官邸周辺では毎週十数万人規模の「再稼働反対抗議行動」が行われています。大きな力です。しかし原発の息の根を止めるにはそれだけでは不十分です。そのためには、

1. 反原発・反被曝を日本の基本政策とする
2. その政策を掲げる政治グループが国家権力を掌握する
3. その政治グループが政府を組織する

ことが必要です。何党でも構いません。この政府を「反原発・反被曝緊急国民政府」と呼びます。

## 検証が必要な 政府・関電のウソ

8月に入りました。関電公表資料によれば関電管内は8月1日36.2℃、2日36.0℃、3日36.7℃と平日の猛暑日が続きました。しかしピーク時最大使用電力は1日2574万kW、2日2650万kW、そして3日2681万kWと今夏最大のピーク時使用電力となりました。しかし政府・関電・関西広域連合が予測した最大需要3015万kWはどうしたのか？政府の“第三者”需給検証委員会は今年5月12日、今夏関電管内のピーク時使用電力3015万kWと予測、またこれを検証した関西広域連合は5月19日ほぼこれを追認し、約15%電力が不足するとしました。結局これを理由に野田政権は危険な大飯原発再稼働を決めました。これがウソであることは今明らかになりましたが、決してそのままにしてはいけません。彼らのウソの検証をしなければなりません。そしてウソの「国民生活防衛」のための大飯原発再稼働を取り消さなければなりません。

(裏面参照のこと)

# これ、ホントに節電効果？

政府・関電予測 **3015万kW**  
 実際はどんなに猛暑日でも  
 ピーク時需要は **2700万kW以下**

**関西電力** ピーク時電力供給量と内訳  
 (7月26日から8月8日)

ピーク時最大電力供給能力(原発除く:推計)

## 3,111万KW以上

(原発を除く認可最大発電設備能力+他社受電600万kW)  
 認可最大発電設備能力は火力・水力・揚水、合計2511万kW

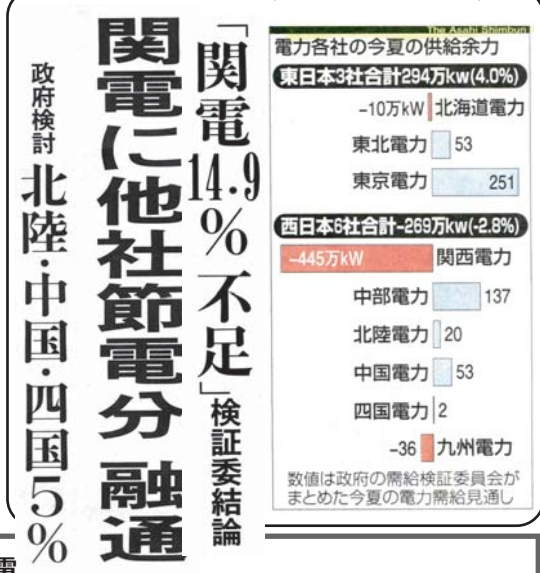
36℃を超えた日

単位はすべて万kW  
 「最高気温」は関電発表のその日の最高気温

2012年				認可最大発電設備能力		火力発電		水力発電		揚水発電		原子力	他社受電		内非融通	率	融通電計	中部	北陸	中国
日付	曜日	最高気温	ピーク時供給実績	ピーク時使用実績	ピーク時刻	ピーク時	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	一定出力	ピーク時	融通電計						
8月8日	水	34.6℃	3,002	2,410	14:00	1,415	83.7%	252	66.7%	432	97.7%	236	666	524	78.7%	142	76	7	59	
8月7日	火	34.4℃	3,026	2,528	14:00	1,435	84.9%	256	67.7%	406	91.9%	236	693	551	79.5%	142	76	7	59	
8月6日	月	36.0℃	3,023	2,625	15:00	1,435	84.9%	246	65.1%	448	101.4%	236	659	517	78.5%	142	76	7	59	
8月5日	日	33.3℃	2,488	2,144	17:00	1,078	63.7%	234	61.9%	281	63.6%	236	660	457	69.2%	203	164	3	36	
8月4日	土	34.8℃	2,759	2,296	14:00	1,195	70.7%	248	65.6%	337	76.2%	236	742	492	66.3%	250	170	24	56	
8月3日	金	36.7℃	2,999	2,681	14:00	1,433	84.7%	253	66.9%	357	80.8%	236	719	559	77.7%	160	76	7	77	
8月2日	木	36.0℃	2,859	2,650	15:00	1,375	81.3%	249	65.9%	402	91.0%	236	696	556	79.9%	140	76	7	57	
8月1日	水	36.2℃	2,990	2,574	14:00	1,413	83.6%	250	66.1%	405	91.6%	236	687	542	78.9%	145	81	7	57	
7月31日	火	35.8℃	2,984	2,612	14:00	1,470	86.9%	253	66.9%	386	87.3%	237	656	545	83.1%	111	46	11	54	
7月30日	月	35.8℃	3,022	2,635	14:00	1,470	86.9%	253	66.9%	417	94.3%	237	646	535	82.8%	111	46	11	54	
7月29日	日	35.9℃	2,610	2,217	19:00	1,208	71.4%	240	63.5%	326	73.8%	237	610	466	76.4%	144	65	23	56	
7月28日	土	35.9℃	2,801	2,339	13:00	1,208	71.4%	256	67.7%	397	89.8%	237	704	494	70.2%	210	100	24	86	
7月27日	金	35.7℃	3,008	2,672	16:00	1,433	84.7%	265	70.1%	407	92.1%	237	667	543	81.4%	124	36	14	74	
7月26日	木	35.5℃	3,029	2,634	16:00	1,433	84.7%	270	71.4%	448	101.4%	237	643	516	80.2%	127	46	14	67	
ピーク時平均			2,900	2,501		1,357	79.2%	255	66.6%	389	91.4%		675	521	77.3%	154	81	12	61	

## 検証が必要な政府・関電・マスコミのウソ

右の図は5月13日朝日新聞(大阪本社版)トップ記事から、見出しと使われた「供給余力」のグラフを引用したものです。内容は信頼の置ける政府の第三者需給検討委員会が今夏「関電管内で14.9%電力が不足する」と結論を出した、とするものです。朝日新聞は4月頃から、電力不足のキャンペーンを繰り返し行いましたが、この日の記事はもっともセンセーショナルなものでした。この記事では原発なしで、関電管内は445万kWの電力が不足し、中部電力管内の供給余力は137万kWしかないとし、『検証委は関電管内の電力不足対策として「全国レベルでの節電と融通の活用を挙げた。『全国で節電目標の共有』を呼びかけ、電力に余裕を作って関電に融通するように求めた(中川透)』と結んでいます。政府・関電・関西広域連合がいかにかウソをつこうと、そのウソの「拡声器」がなければ、国民に伝わりません。その拡声器の役割を演じたのが、朝日新聞、NHK、共同通信をはじめとする主要マスコミでした。彼らにもキチンと自分たちのウソを検証してもらわなくてはなりません。



1. 関西電力の「原発」と「新エネルギー」を除くピーク時最大発電能力は、火力、水力、揚水合計2511万kW。(認可発電設備ベース)
2. 他社受電は、IPP(独立発電事業者)、自家発電設備などからの契約による購入あるいは余剰電力の購入及び他電力会社からの融通電力。
3. 関電は「ピーク時供給力とは、ピーク時に発電できる最大電力のことです。発電設備量とは一致しないにご注意ください。」と説明しているが、これはおかしい説明。もしこの説明が正しいとするなら、土曜日・日曜日には「ピーク時に発電できる最大電力」が、都合良く下がることになる。また現実にも8月9日は、相生発電所2号機(38万kW)、海南発電所2号機(45万kW)同4号機(65万kW)御坊発電所1号機(60万kW)の計208万kWの火力発電所は点検でも故障でもないのに全く稼働していなかった。
4. また水力「発電設備量」と「ピーク時供給力」は必ずしも一致しません。」として、流域河川の水量が足りないケースを上げている。しかしこの説明もおかしい。流域河川の「出水率」を明示していない上に、過去1ヶ月間の水力発電量は270万kWから230万kW程度になだらかに下がっている。これは原発3号機・4号機がフル稼働にはいるのと逆比例している。すなわち原発がフル稼働となるにつれ生ずる余剰を水力発電を抑制することで調整していると考えられる。
5. 興味深い現象は、他社受電が一向に減らないどころかむしろ上がっていることだ。需要の下がる土日になると他社受電が上がり、中でも中部電力が突出して上がっている。これは中部電力との契約で中部電力管内の余剰を関電が引き受ける契約になっていることを意味し、また独立発電事業者との契約は恐らく一定量を引き受けるものとなっていると思われる。
6. 従って関西電力のピーク時最大電力供給能力は、原発を除く自社発電能力2511万kWに他社受電600万kW以上を加え、確実に3111万kW以上と推計できる。
7. 資料出典は関西電力ホームページ「過去の使用電力実績ダウンロード」及び「関西電力有価証券報告書 平成23年度」